

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513704		
法人名	株式会社 杉の木ケアサービス		
事業所名	グループホーム杉の木		
所在地	〒049-0422 北海道上磯郡木古内町字本町52-1		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191513704-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 24時間医療連携がとれる体制を整えている
2. 地域の食材、旬のものを取り入れた手作りの料理を提供している
3. 介護が画一的にならないよう入居者さんの個性を尊重した介護を行うよう心掛けている
4. 地域の方々が収穫した野菜などをおすそ分けしてくださるなど協力してくださる
5. 内装は地元の杉材を利用し落ち着いた雰囲気で統一している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム杉の木」は今年度から以前の「グループホーム杉の木別館」に移転している。JR木古内駅より徒歩5分ほどの距離で、スタッフもほぼ変わること無く、利用者は今まで通りの落ち着いた暮らしを継続している。当事業所は木古内町の中心部に位置し、広い通りに面した鉄筋コンクリート造り3階建て、2階部分が1ユニットの「グループホーム杉の木」で、1階は「デイサービス杉の木」が入る、併設型の建物である。事業所の入り口は地産の杉材を多く使った落ち着いた雰囲気の設えになっている。事業所の周辺には古くからの老舗酒店や菓子店、コンビニエンスストア、ドラッグストア、銀行、役場、国保病院、道の駅があり、利便性が高い立地環境である。この事業所の優秀さは、一人ひとりの利用者の思いに寄り添い、自宅に居る時と一緒に起床・就寝時間は自由、入浴も午前中なら本人が入りたい時に「いつでもどうぞ」の体制を整えている。食事は日頃から地産の旬の食材にこだわり、特に正月やお盆、節句など節季を意識した家庭的で、楽しく温かく、利用者の五感に訴える様に工夫を凝らした料理を手作りしている。代表者と管理者は職員が企画したお祭りや運動会、ビュッフェ形式の食事の計画等々を「やってみたら」の声がけをしてしっかりと支え、職員のやる気と結束力を固めている。職員は毎日利用者が「わくわく」した気持ちで暮らせるように、その日の天候や利用者の様子を見ながら、短時間でもみんなと一緒に楽しめる運動会やゲームをその時々に合わせて臨機応変に考え行いながら、利用者の「ふんわり」と穏やかな毎日の暮らしを支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で自分らしく安心して過ごせる柔軟な支援を理念として掲げ、施設内に提示しご家族、来客の方々も目にすることができます。申し送りやホーム会議で確認を行い実践に取り組んでいます	地域との関係性を重視しつつ、利用者の個性を尊重し臨機応変に対応することを旨とした理念を日々確認し、実践に活かしている。事業所内やパンフレットにも掲示して、利用者や家族、地域の方々に約束事として職員の決意を伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	催事には体調を見て参加し、ホームの催事は案内を送り地域の方々の参加を呼び掛けています	近くのコンビニエンスストアやスーパーマーケットへ買い物に行った際は、利用者や職員は店員と積極的にコミュニケーション図り、職員は介護保険制度の相談をされ、アドバイスをする等、地域の中で専門性を活かした役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症介護に関する不安や相談に対応できるように努めています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に活動報告と意見交換を行っています。いただいたご意見は運営やサービスの質の向上に役立てています	令和5年4月からグループホームと小規模多機能、デイサービスが合同で一堂に会した運営推進会議を開催し、健康管理センター、町内会長、民生委員、消防署の方々が出席し、「活動報告・予定」「研修会報告」「利用者の様子」「介護保険の仕組み」等について、意見交換を行い。議事録は家族や各関係機関に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々と密に連絡を取りサービスの質の向上と提供に努めています	町の担当職員とは空き室情報や入居相談等、日頃から連携を密に図り、顔なじみの関係を築いている。ケースワーカーとは電話や書面で連絡を取っているが、年に2回程の訪問時には本人や管理者と面接している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・勉強会を通して身体拘束に関する知識の共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めています。やむを得ない場合のみスタッフ会議で検討、ご家族様へ十分な説明、状況の報告を行い了承をいただいたうえで行うこととしています	定期的に勉強会を開催し、記録を作成して全職員の認識の共有を図り、身体拘束をしないケアに徹底安全で自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会を通して虐待防止の認識を共有し虐待のないケアの実践に努めています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め、必要とされるケースに遭遇した場合制度を活用するために関係機関と連携をとる体制を整えています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所の際は十分な説明を行い、不明な点があればいつでも聞いていただくようお願いしています。特に料金や予想されるリスク、看取りの対応、医療連携についてご理解いただけるまで詳しく説明させていただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情相談についてご家族に説明し、要望や苦情がある場合運営者に報告し、職員全体で話し合い改善に取り組んでいます	家族には毎月スナップ写真を載せたお便りを送って利用者の暮しぶりを報告し、その情報から意見や要望を集め、利用者からは日頃の関わりの中で収集し、代表者や管理者、全職員で検討してケアサービス向上につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職はできる限り職員の状況把握に努め、記録の確認、申し送りの際に意見相談を聞き全職員が周知できるよう連絡ノートやホーム会議の場を活用しています	管理者は日頃から申し送り時や毎月の会議などで意見や提案を受け、「やってみたら」と声をかけ、職員のやる気を引き出し、モチベーションアップとチームワークの強化につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的にホームを訪れ勤務の実態を把握、相談やアドバイスをしています。職員が日常的に学ぶことができるよう資料の配布や研修、講習の開催、親睦の機会を設けたり、定期的な健康診断を実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内でテーマを決め研修を行っているほか、外部研修や講習会などは士人を調整して多くの職員が参加できるように計らい、参加者には後日レポートを作成し伝達講習も行い参加できなかった職員にも知ってもらえるようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などの会合に参加、交流を図り情報収集やサービスの質の向上に取り組んでいます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学や面談でご家族、ご本人様から話を伺い関係機関の方からも情報を得てスタッフで話し合い安心できる受け入れ態勢を整えています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等でご家族様とお話ができる時には近況の報告を行ったり、気になること、意見要望等はないか尋ねています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の希望に沿った支援を行うことは当然ですが現状を見て支援が足りないと判断できる場合、職員全体で話し合い必要な支援を提案するなどの対応を行っています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の日常的な会話、おやつや生活用品の買い物、禁書の散歩と一緒に出掛けたり、献立の希望を伺ったり共にホームで暮らしている関係を続けていくように努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様でないとうまくいかないことなどは、負担にならないよう配慮しながら協力していただくことでそれぞれの立場からご本人様を支え支援しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙、電話、面会、外出支援などできる範囲で入所前の交流が継続できるよう努めています	面会は手袋とマスク、フェイスシールドを着用して、10分程度の短時間であれば誰でも可能である。受診の際、家族との外出も許可し、また、3～4か月ごとに訪れる訪問理容師・美容師を利用者は楽しみに待っていて、馴染みの美容師に自分の注文を伝えて、お気に入りのヘアスタイルに仕上げてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの生活リズムを把握しレク・軽作業など利用者さん通しで関われる環境を多く見つけ情報を共有し共同生活が送れるよう努めます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退所された方へのお見舞い、他の理由で退所された方のご家族に街中であった時に声をかけています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかわりの中で見られる表情や反応・態度などから希望や意向を読み取っていますそれぞれの想いを大切に对应しています	在宅時から医師である代表者をかかりつけ医としていた利用者の中には最期まで「先生の側に居たい」と明確な意思表示をする方もいる。また、好きな食べ物の希望までも受け止めて願いが叶うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、関係者から入所前の生活状況について聞き取り、把握することにつ溶けています。入所してから気付いた事はご家族に確認し、以前の生活状況にできる限り近づけられるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、ご家族、関係者の話から生活歴、性格、趣味嗜好を把握し生活リズムや心理面の変化など生活記録に記載してスタッフで共有し本人の理解に活用しています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議内でケアプランのカンファレンス、モニタリングを行い本人、ご家族の希望を取り入れ次の計画に反映しています	職員が把握した情報を担当者会議で丁寧に話し合い、本人や家族の細かい要望までも検討して、現状に即した介護計画を作成している。当初は3か月ごとに見直す、状態が落ち着くと概ね6か月を目途に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの生活記録に気付いた事、身体・精神状態他日々の暮らしの様子、言動を記録し、それらについてスタッフについて話し合い本人に寄り添ったケアを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族に希望にそって通院、買物、理美容院、その他外出外泊などに対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と様々な接点を見いだせるよう周辺地域の方々、ボランティアの方々の協力と呼びかけを行っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の4週間に1回の訪問診療と本人、ご家族が希望するかかりつけ医を利用することにより、医師、本人ご家族、ホーム間の報告連絡相談を密にすることで適切な医療を受けられるように努めています	看護師により、毎日健康管理が行われている。町内の病院への受診は職員が同行し、遠隔地の眼科などの受診は家族が同行している。協力医療機関と密に連携を図り24時間適切な医療を提供できる体制を整えている。	

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフが毎日の入居者さんの状態を報告し医師、看護師が健康管理を行い安心して生活を送れるよう状態に応じた支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には医師看護師に必要な情報を提供しています。入院中はお見舞いに行き本人、看護師から様子を聞き退院後適切な支援を行えるようスタッフに伝えています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明をしています。看取りを考える時期になった時ご家族に再度説明、ホームでできる事できない事を報告し今後の方針や具体的な支援の方法について話し合い意見を統一しています。医師・看護師・ご家族・介護スタッフが一体となり本人がその人らしく最期を迎えられる支援を行っています	利用開始時に「重度化した場合および看取りに関する指針」を本人と家族に説明をして、同意を得ている。多くの看取りを経験しており、本人の体調の変化に速やかに対応できるように、家族と24時間の連絡体制を整えて意向を確認し、本人が充実して、納得して生き抜くことが出来るように、本人の尊厳に十分配慮しながら終末期介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われます。医師の指導の下応急手当・AED等講習会を行っており適切な対応ができるように努めています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が消防災害対策をけいかくし定期的な自主検査と防災訓練及び講習を行っています。臂膀王子は連絡網でスタッフを招集するほか近隣の健康管理センター職員も応援に来てくれる体制を整えています	年間複数回、火災や消火器の取り扱いなどの訓練を実施している。近くの住民やコンビニエンスストアに声がけをして協力を依頼している。避難をスムーズに行うため、充電式の階段昇降機を設置したり、ネット状の担架等を用意している。食糧備蓄は2日分あり、ポータブル石油ストーブも用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心、羞恥心に配慮した声掛け、介助を行い個人の記録は施錠できる保管庫で管理しています。スタッフは採用時に個人情報保護、守秘義務について説明を受け、誓約書にサインしています	羞恥心を伴う排泄介助には十分配慮した対応を心がけ、誘導はさりげなく声がけをしたり、排泄には番号をつけて記録している。呼び名は本人が希望する呼び方にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に意思の確認をして、必要な場合スタッフからも助言をして決めてもらうようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事の時間等できる限りはその方の生活リズム、ペースにあわせられるよう時間調節します。入浴はホームの都合もありある程度日程や順番は決まっていますが、本人に確認し日にちや順番を変更できるようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に相談し選んでもらっています、天候や体調、季節を鑑みて必要があればスタッフが助言をしています。髪が伸びてきたら理美容院にカットをお願いしています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんそれぞれの好みを把握し、誕生日には好みの献立作りをしたり楽しめるような食事の工夫をしています。できる方は一緒に下さりえやおかず、おやつ作りをしています	日々の食事は旬の食材で季節感を出し、正月やお盆、節句などの食文化も大切に、時には料理上手な職員が腕を振るい、メインからデザートまで20種類ほどの彩り豊かな料理を並べてバイキング形式で食事を楽しんでいる。誕生日には本人が好きなケーキやご馳走を用意して祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事水分摂取量を毎日記録し、栄養のバランスに配慮した献立を考えています。味付けや盛り付け、量の加減、大きさやきざみ、とろみをつけたり等工夫して提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい歯磨き、義歯の洗浄、つけ置き、口腔内の観察をこまめに行い、または介助で行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの状態により必要な方は紙パンツや紙おむつを着用したり、夜間だけ着用したり、ポータブルトイレを設置して使用したりしています。適時排泄の声掛けや誘導・確認を行うなど快適な排泄ができるように努めています	トイレでの排泄を大切に、オムツ使用でも排泄パターンや態度を見ながら誘導している。職員は排泄時トイレの外でそっと待ち安心感を大切に、利用者一人ひとりに合わせた方法で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食事、水分補給、無理のない範囲での軽い運動等できる限り自然排泄できるように支援しています。便秘が続く下剤が必要な場合は医師に連絡相談し、指示の下で下剤を使用しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームでは業務の都合で午前中を入浴の時間にしていますが、その範囲内であれば時間や順番を変更して入浴することができます。入浴する前にはバイタルと体調を確認し問題ないことを確認してから入浴しています	週4～5日間、浴槽に湯を入れて浴室を温めて準備し、午前中ならいつでも入れる体制を整えている。風呂での楽しみはスタッフとの世間話や食事の話、歌を唄う、遊びの情報まで話題が尽きることはない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の活動の他一休みする時間を設けたり、それぞれ好きなペースですぐしてもらえるように努めています。部屋の温度や換気、明るさも適時確認して快適に過ごせるように配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には名前日付食前前後を記入したその人専用の薬箱に入れ箱から出す時、服薬の直前にも本人の確認を行い飲み忘れや誤薬を防いでいます。処方内容はファイルで保管しておりいつでも確認できるようになっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクやちょっとしたお手伝い、軽作業などそれぞれにあった事をホームでの暮らしの中から探し出し、一緒に楽しんだり、作業終了時には感謝の言葉を伝えています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出の他、天気、体調の良い日は買物や散歩、菜園の収穫、地域のイベントを見に出かけています	日常的に事業所の周辺を散歩して、春には庭の水仙や桜を愛でたり、道ばたに咲く花にも目を配り楽しんでいる。この地域に住む人にとって欠かせない風景である「みそぎ浜」まで足を伸ばし、潮風薫る海辺で「みそぎ祭り」に思いを馳せながら、気分転換や五感刺激をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族で管理したり、ご家族に希望があれば施設で管理していますが、少額なら自分で管理できる方はご家族の了承を得て自身で管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で行うことが困難な方にはスタッフが取り次いだり、手紙の代筆、代読を行っています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りつけや小物の作成、植物の水やりなど行っています。天候・温度・湿度にあわせカーテンや窓、暖房を調整、共有空間はこまめに換気清掃し快適に過ごしてもらえるよう配慮しています	共有空間は温度と湿度が高齢者に合わせ適切に管理され、空気清浄機も数か所に設置して、常に清潔が保たれる様に配慮している。現在、外壁の修繕工事中で、時折大きな音がしても利用者は不穏にならず、穏やかに過ごしている。廊下に利用者と職員が一緒に作った大きな貼り絵を飾り、季節感や温かい雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さんは自由に共有空間を使用できます、自室にいる時間が長い時は時々スタッフが様子を見に行ったり、声掛け行っています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にいくつか使い慣れたものを用意してもらっています。家具類は部屋の出入り口をふさがないようにご本人ご家族と相談の上配置しています。その他必要な場合はご家族に連絡し用意してもらったり、施設の家具を貸し出して対応しています	各居室にはクーラーとクローゼット、リースの介護用ベッドが備え付けられているが、その他に使い慣れた家具、冷蔵庫、テレビなどを持ち込み、動線を塞がないようにスッキリと配置して、ゆっくりと寛げる自分の部屋を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋の入り口にわかるような目印をつけたり、食事はそれぞれにあった高さの違うテーブルや椅子を用意したりすしやすい環境整備に努めています		

目標達成計画

事業所名 グループホーム杉の木

作成日：令和 5年 11月 9日

市町村受理日：令和 5年 11月 9日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2・ 18・ 28・ 49	コロナウイルスの流行に伴い近所の散歩、お花見などの外出する機会をかなり制限している	コロナウイルス流行前の水準に戻すことは難しいが、情勢を踏まえながら外出の機会を徐々に増やしていく	コロナウイルスの流行状況の確認、外出する日時、参加希望者の確認、参加する入居者・スタッフの体調の確認、外出先の混雑状況の事前確認	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。